

学校評価表
令和5年度の教育活動に対する学校評価書

令和5年3月

学校法人浜松海の星学院 浜松聖星高等学校校長 重信明利
学校法人浜松海の星学院 浜松聖星高等学校学校関係者評価委員長 小田木基行

評価項目	具体的取組	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
【建学の精神】 カトリック精神に基づいた教育が行われているか。	週に1時間の宗教の授業やマリア祭、物故者追悼式、チャペルアワー等の行事で理念を確認し、理解を深める。	B	すべての行事が復活し、それぞれでカトリック精神に触れる場を設けることができた。	A	特になし
【生徒指導】教職員 教職員は熱意をもって教育活動に取り組んでいるか。	週に1度の学年会で生徒情報を共有し問題があれば対応する。アクティブラーナーを利用し、各自で研修に取り組む。	B	定期テスト期間中には職員全体で統一テーマによる研修ができた。週ごとの学年会では、個々の生徒について教員団で現状認識ができた。	A	特になし
【学習】 学習指導は充実しており、学力向上に成果を上げている。	個人または教科全体でスタディサプリや他の講座を受講するなどの研修を積んで授業力の向上に努める。	B	電子黒板等ICTの活用により授業効率の向上が図られるとともに各教科で分かりやすい授業が実践された。	A	特になし
【国際教養教育】 国際教養教育が十分に行われているか。	1年次理数コース全員・特進コース全員と進学コースの希望者に対しGSPを実施。夏季海外研修、長期留学3コースを行う。	B	カナダ留学、オーストラリア留学ともに滞りなく実施され、GSP(グローバルスタディーズプログラム)も例年同様行われ、多数の生徒が参加した。	B	特になし
【進路】 進路指導は充実しており、進路希望の実現に寄与しているか。	各学期に1回進路ガイダンスを行い、生徒の意識を高める。模試の後、各学年で分析会を行い、その結果をその後の指導に活かす。	B	低学年段階から生徒・保護者を対象に進路ガイダンスを実施、進学目標を国公立大学・難関大学に向けて行うことができた。	B	特になし
【生徒指導】生徒 基礎的生活習慣や規範意識が身に付く教育が行われているか。	学期に1回、面談週間を設け一人ひとりの生徒を把握し、生徒対応にあたる。養護教諭とも連絡を密にし、早めに対応できるようにする。	B	デバイスの不正使用、飲酒・無届アルバイト、試験不正行為、無断外泊等の生徒指導案件が生じたが、重大事案には至らずその都度適切な指導ができた。	B	おしやれなどやりすぎる生徒がいるようだ。先生方にもバランスを考えた指導をお願いしたいが、保護者も子どもの教育をする必要がある。
【学校行事】 全体として学校行事が充実しており、教育成果を挙げているか。	文化祭、体育祭、スポーツデーでは、生徒会を中心に、生徒の自主性を生かした行事を目指す。	B	文化祭では食品販売ができるようになり、体育祭・スポーツデーでも生徒の生気溢れる活動が戻ってきた。	A	保護者アンケートで不満が0であることは素晴らしい。体育祭では運営を教員がやっていた違和感を感じた。もう少し生徒主体になると良い。
【課外活動】 部活動や奉仕活動が充実しているか。	入部は任意である。各部がそれぞれ目標を持って取り組む。	A	陸上部・女子バスケット部などの運動部、吹奏楽部・放送部などの文化部が全国を舞台に活躍した。	B	男子の部活でも良い成績を残せるようになって欲しい。
【学校情報】 ホームページ、学校通信など学校からの情報発信は十分行われているか。	校務システムBLENDを活用し、情報発信をおこなう。毎月学校通信を発行する。	B	BLENDによって、保護者への情報発信が継続的にに行われており、学校通信も毎月配信されている。保護者からのクレーム等も減少している。	B	子供から情報が入りにくくなる年齢なので、学校から様々な案内をして欲しい。保護者もアンテナを高くする必要がある。
【情報公開】 情報公開が行われ、学校運営に透明性がある。	財務状況をホームページ上に公開する。	B	適切に行うことができた。	A	特になし
【施設設備】 学校施設が整備され、安全に十分配慮されているか。	点検整備を常に心がける。	A	各校舎の屋根および壁面の防水工事が進み、目に見える範囲ではないが整備が進んでいる。	B	夏に学校行事を見学した際、エアコンが効きすぎていた。環境に優しくすると良い。
【安全対策】 防犯、防災、安全管理への対策が整っているか。	年に2回防災訓練を行う。財布等の貴重品は鍵付きロッカーにしまうように指導をする。	B	他人のデバイスを不正使用するという事案はあったが、鍵付きロッカーにより貴重品の盗難等はなかった。	B	世間で防災対策が変わってきている。浜松も地震が起こる地域なのでしっかり取り組んで欲しい。

* 評価点 A(十分に成果があった) B(成果があった) C(少し成果があった) D(成果がなかった)

《今後に向けて学校の考え》

共学化以来、生徒の学力レベルの向上が顕著となり、生徒及びその保護者の本校の教科指導に対する要望も高度になりつつある。特に難関大学に対応した受験指導についての要望が多く、本校としては授業のみならず補講、土曜講座等を活用することで、このような要望に対応していくことを考えている。

ただ、本校はカトリックミッションスクールという立場から、単なる公立進学校の模倣ではなく、キリスト教的人間観を根底にした全人教育が前提となる。

今後は、本校の基礎を築いてきた先人たちの精神に立ち返り、私立学校らしさ、カトリック学校らしさを重視した学校運営を考えていく。